

# 飛翔



第 14 号 2025.12.8

今回は、高齢者理解講座についての感想を載せることができませんでしたので、高齢者理解講座の感想を紹介します。

また道德の授業では、骨髄移植やドナーカードから、みんなで「命をつなぐ」ことについて考えてみました。どう感じたのか、みんなの思いや考えを紹介します。

## 高齢者・認知症理解講座



11月28日にキャラバンメイトの方々に来ていただき、認知症や車いすの補助、白内障めがね、腰かがみベルトを使って高齢者の目線になって、ものを見たり感じたりする体験をしました。車椅子で段差を超えることの難しさや高齢で足腰が不自由になって階段の上り下りをするの大変さ、物が見えにくくなるなど体験して初めて知ることができました。また、認知症についての講義では、どのように接していくことが望ましいのかも学びました。(※キャラバン・メイトとは、地域で暮らす認知症の人や、その家族を応援する認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」の講師役を務めるボランティアさんのことです)



高齢者理解の体験があり、高齢者が見えている世界が、こんなに、あんなに、見にくかったなんて思いませんでした。体験のおかげで、高齢者にもっと優しく振る舞うことができると思いました。

車椅子の体験では進むときは、操作が思ったより簡単で、持ち上げたりするときに難しかったです。これらのことを覚えておき、もしやる時があったらできるようにしたいです。(1組 NR)

今日の高齢者理解講座で、認知症や腰が曲がってしまうのなど、自分が思っていた以上に高齢者は大変なんだと思いました。それに、高齢者に強くあたってしまう人もいますので、もし認知症の人などと何かがあったときには、今回のことを思い出してイラついてしまうんじゃないかと、しっかりとその人にあった対応をとっていきたくと思います。

高齢者の白内障や車椅子体験では、白内障は本当に視界がぼやけているみたいで、見えにくかったです。70代の90%がなってしまうので、自分もなってしまうと思うと大変だなと実感しました。ベルトでは、腰が曲がっている状態では、階段が上がりにくかったり、下るときも怖かったです。なにより、ベルトを外した瞬間腰が痛く、大人がよく腰が痛いと言っている意味がわかりました。車いす体験では、乗る体験も、介護をする体験もどちらもして、乗っている方は意外と怖く、介護をするときに声掛けが必要な理由がわかりました。

困っている人がいれば、自分で声をかけてみたり、無理そうなら店員さんに言ったりと行動していきたいです。(1組 KI)

今日は高齢者理解講座が二時間ありました。最初の話聞いて、スーパーとかのお会計のときの店員さんも大変だからちょっと強く当たるのは仕方ないかもしれないけど、それを踏まえた上で僕も行動できるようになりたいと聞いて思いました。

実際に車椅子や白内障の体験をしてみて、車椅子は誰かに押してもらわないと、段差とかが難しくとても大変だろうなと思いました。白内障の体験では、見えはするけど色の区別がとてもつきにくいし、文字とかも読みにくいだろうなと思いました。今日改めて高齢者は大変なことがとても多いから、それを僕達のような若い人が時にはサポートしてあげないといけないなと思いました。

これからの生活でも、高齢者の気持ちを理解して生活をしていきたいなと思いました。と思います。改めてその人達のすごさを知れる良い機会になりました。ありがとうございました。(2組 NK)



高齢者理解講座がありました。認知症の人の症状や接し方を学ぶことができました。高齢者の方には優しく接してあげることが大切だとわかりました。また、高齢になるといろいろな症状が出てくることもわかりました。

車椅子体験では、自分は車椅子に乗るのは初めてで、乗ってみると意外と怖かったです。段差があるときの車椅子の操縦の仕方わかりました。

もう一つの方の体験では、腰が曲がるととても歩きにくかったです。あと視界も悪くて、高齢者になったらこんなふうになるんだと思いました。

今回の体験で高齢者のことを理解することができたので良かったです。自分の祖母もまだ若いけれどこれから年を取ると認知症になるかもしれないと思うので、この経験を生かして接していきたいです。(2組 KS)

## 「命をつなぐ」授業より

献血により骨髄バンクに登録し、ドナーとなれることが分かった青年有哉が、骨髄を提供することについて、みんなで考えました。

- ・命って大切だなと思いました。移植はセンシティブな話題だけど、考えることは大切だなと思いました。
- ・私だったら提供したいけど、怖いからすごく迷ってしまうと思います。助けたいと思いつつも、失敗して死にたくない。
- ・私は事故にあったら、あげられる部分はあげたいと思っていたことがありました。でも今回の話から、そんな簡単にできるものでもないし、その人に適合するか、適合しても提供できないこともあると改めて知りました。これからは、人のために行動できるように、自分が後悔しないように生きていきたいなと思いました。
- ・他人を助けたいという気持ちはあるけど、とっても痛い手術をしなきゃいけないので、ドナーになるのは嫌です。有哉はすごい判断をしたと思いました。
- ・自分ももしチャンスがあれば、ドナーになったり献血に行ったりしたいなと思いました。僕も、人のために行動できるような人になりたいと思いました。
- ・私は母に、自分にも何かあったらドナーにしてと言っています。自分の暗くなった未来が他の人に繋ぐことで明るくなるとおもったからです。親の気持ちやいろいろな立場の思いがあると思うけど、私は改めて他の人の力になれることを最後までしていきたいなと思いました。